

# 同 志 社 大 学

## 2013 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2013年 3月 18日提出

所 属	職 名	氏 名
グローバル・コミュニケーション学部	教授	玉井史絵
研 究 題 目	19 世紀イギリスの教育と文学—Dickens, Gaskell, Gissing を中心に	
研 究 成 果 の 概 要	<p>前年度に引き続き、19 世紀イギリスの教育と文学についての研究を行った。成果としては、まず、2012 年度に開催された英文学会関西支部で行った招待研究発表「帝国主義と教育—ジョージ・ギッシングの <i>The Whirlpool</i> をめぐって」を同学会が発行する <i>Proceedings</i> にまとめたことが挙げられる。また、2010 年 9 月開催のディケンズ・フェロウシップ日本支部年次大会で行ったシンポジウムでの発表をもとに、“‘Times Are Lebellling Times’: Violence in the Age of Democracy and Imperialism”と題する論文を、ディケンズ生誕二百年記念として出版された <i>Dickens in Japan: Bicentenary Essays</i> (Osaka: Osaka-Kyoiku-Tosho: 2013)に寄稿した。この論文は Dickens Fellowship 本部が発行する学会誌 <i>The Dickensian</i> のなかでも高く評価されている。さらに、2013 年 10 月に中央大学駿河台記念館で開催された日本ギヤスケル協会年次大会では、「Britain and Beyond: ギヤスケルと帝国」と題するシンポジウムの司会兼講師をつとめ、「<i>Sylvia's Lovers</i>—個人の自由と帝国の秩序」と題する研究発表を行った。</p> <p>2008 年度から取り組んできた本課題に取り組んできたが、当初予定していた Dickens, Gaskell, Gissing それぞれに関する論考を本年度で一通り終えることができた。今後とも本課題に取り組んで行きたいが、来年度以降は、特定の作家の作品論から範囲を広げ、文化史的、教育史的側面からも文学と教育の関わりについて考察していきたい。</p>	